



◇ ◇ 地域の児童生徒の皆さん、一般の方々へ向けて 講座、実習設備を開放・公開しています ◇ ◇

☆ 走査型電子顕微鏡 (SEM) の開放、SSH コース生徒による

地域の児童生徒への自由研究助言 (三澤文庫講座第1回) 実施 ☆



7月27日(日)本年度第1回三澤文庫講座兼地域の児童生徒へ向けての走査型電子顕微鏡 (SEM) の開放講座を実施しました。この走査型電子顕微鏡を寄贈して下さいました原雅幸さん(94)について直接の教え子に当たる今井正喜さん(一般財団法人諏訪清陵会理事、SSH 運営指導委員)から、原さんのチョウ目の研究にかけた人生と、そのきっかけについてお話を頂きました。

原さんは旧制諏訪中学校時代の友人や先生との出会いから、地域の風土、自然、特にチョウ目についての興味関心をいただき、進学、就職されてからもそして戦時中も興味関心を失うことなく、むしろ精力的に世界中を歩き回ってチョウの採集、研究に取組まれたそうです。そして、特にチョウ目の卵の微細構造の研究とその分類に関心を持たれ、遂には私財をなげうって走査型電子顕微鏡を購入されて、蝶の卵の微細構造とその分類の研究に取組まれたのだそうです。

チョウの研究者原雅幸氏について

お話しされる今井さん

のチョウの研究者としての原さんの魅力的な生き方が、生徒諸君の心に印象深く残ったようです。

その後、実際に本校中学棟技術科学室に設置された走査型電子顕微鏡を起動して、地域の小学生、中学生、一般の方が持ち込んだ花粉、ギター弦の弦、諏訪湖のプランクトンなどを観察しました。最初は、本校職員やSSH コース生徒の指導の下で電子顕微鏡を操作していましたが、後半は小中学生自ら顕微鏡を操作して試料の観察を行い、鮮明な画像を撮影していました。

撮影したいろいろな植物の花粉の画像は、夏休みの自由研究に活用するとのことでした。本校SSHコースの2、3年生は、電子顕微鏡操作の補助を行ったほか、地域の小中学生の自由研究の助言者として待機しました。



本校中学棟に設置された走査型電子顕微鏡を操作する地域の小中学生

☆夏のわくわくサイエンス実験講座 (諏訪市児童センターにて) ☆

8月6日(水)、本校化学部の諸君が諏訪市児童センターを訪れて、沢山の児童生徒の前で科学実験を披露しました。

この企画は、諏訪市児童センターの協力のもと数年前から始めた事業です。最近はこの活動「わくわくサイエンス実験講座」を発展させて、秋に催される「児童センターまつり」においても、化学部が中心となって生物部・物理部など他のクラブと協力して行っています。

地域の公共施設、公共団体と協力することで、より広く、気軽に児童生徒に科学の面白さと奥深さを伝えることができます。

地域の中学生、高校生と協力して、児童生徒の科学に対する興味関心や意欲を高める取組の実施も検討しています。

